

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071601811
法人名	医療法人八十八会 ツジ胃腸科医院
事業所名	グループホーム こすもす (ユニット名 1F・2F )
所在地	福岡県久留米市上津町下千束1217番地1
自己評価作成日	平成29年10月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成29年11月14日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、ツジ胃腸科医院を中心とし他に介護老人保健施設・ケアハウス・グループホーム・小規模多機能型居宅介護等があり、夏祭り・毎月のお茶会等への行事に参加することにより入居者同士の交流も深めています。  
リビングからは成田山の観音様を望むことができ朝・夕に拝む利用者の方もいます。広い畑では季節の野菜を植え収穫した物は食卓に並び皆様に喜んで頂いています。「ゆっくり、楽しく、一緒に」の理念を基に安心して暮らして頂けるように支援しています。又、地域との交流も少しずつですが深まってきており、自治会のイベントにも積極的に参加しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅街の一角にある2階建てのグループホームである。母体がかかりつけ医なので、利用者本人や家族にとって安心あるホームである。玄関から建物内は整理整頓されていて清潔感が漂っている。インフルエンザ予防のための加湿空気清浄機が各階入ったところに設置されていて、この存在も医療的に安心感がある。理念の他に「暮らしのめあて3ヶ条」を壁面に掲示しており、職員・利用者・家族が理解し、共有して実践にあたっている。調理、リビング、食堂が一つの空間になっているが、広いリビングには不要になったベッドを横にして飾り棚へと変身させて、ひと区切りの落ち着ける空間になるよう工夫している。職員の利用者を尊重した日常の関わりが利用者の落ち着きや笑顔にあらわれている。地域とのつながりにもひと足ひと足と歩みを進め、実りが少しずつ見えてきている。今後、更に期待できる事業所である。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご本人の力、ご家族の力、地域の力という言葉を実践の中に取り入れている。地域の力とは地域との交流の中、絆を深めるという意味です。職員全員で共有し、毎日申し送り時に唱和している。	理念を4年前に見直しをして、毎日唱和をして意識づけをしている。何気ない出来事から対応を話し合う中で理念を思い出したり、介護計画に活かしたり実践につなげている。また、職員の共有のみならず訪問してくる地域の方にもわかるようにリビングに大きく書いて掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会より市政便りや校区便りを持参されている。地域行事へお誘いもあり季節ごとに参加をしている。ホームの行事にも参加して頂いている。	自治会に加入しており、地域の夏祭りなどに参加したり、ボランティアの方が来られたりして交流を図っている。散歩や公園のベンチで地域の人と会話を楽しんだり、花を頂いたり、フェンス越しの会話で様々なことを教えてもらったりと、日常的に交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の介護講座に出席し説明している。介護保険のサービスの相談を受け対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、自治会長、民生委員、近隣住民、市役所、地域包括センターに参加して頂き、状況報告、研修報告等を行い、助言や意見を参考にしてサービスの向上に活かしている。	運営推進会議ではホームからの報告、地域からの情報、市から「包括だより」の説明を詳しく受けたり、その他、介護相談員、ヒヤリハット、消防署の立ち入り検査の結果、外国人介護者、看取り等について意見交換をしている。また、地域の連絡網をもらい災害に備えるなどサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて市担当者に相談し助言を頂いている。運営推進会議にも参加してもらい、毎月介護相談員の訪問も受けている。	書類の手続きや疑問が出たことは市に質問している。市が保健所や厚生労働省まで尋ねて解決に繋がったこともある。防犯や交通安全講習会の案内をもらったり、グループホームが指定避難所となっていたりする。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加後、研修資料を回覧し周知の徹底を図っている。ミーティングで研修報告を行い、全職員が理解出来るようにしている。	身体拘束の外部研修参加は正規職員のみだが、法人内の研修にはパート職員も参加している。年に2回虐待のチェックリストを活用し、フィードバックすることで注意を喚起している。利用者がホームを出ようとするときは、一緒に出ていき、落ち着いたところを見計らい声掛けをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加後勉強会を行い、言葉のかけ方、対応の仕方、虐待につながらないように防止に努めている。気づきがあればその都度話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、苑内の伝達講習、ミーティングでも勉強会を行い制度について理解を深めている。日常生活自立支援事業所を利用されている人もいる。	権利擁護についての外部研修参加、内部研修の開催、共に行っており、職員は概ね理解している。家族全体への情報提供は家族会を発足したばかりなので、今は考えていないが、現在、家族構成の変化があった人に成年後見制度の説明をして勧めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご本人、ご家族の不安や疑問について十分に説明し納得を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には声かけを行い、意見・苦情等言い易い状況に努めている。ホーム内に苦情箱を置き、又、公的窓口を重要事項説明書に記載し説明している。市の相談員も受け入れている。	家族より、職員の名前と顔が結びつかずわからないとの意見から顔写真と名前を掲示している。また、本人ができることは見守りだけにして欲しいと言われ、職員の統一を図って実践している。要望や意見を言いやすい雰囲気づくりを心掛け、家族の言葉を謙虚に受け入れて運営に反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に意見や要望を出してもらっている。法人内の会議に提案し、業務改善、向上に努め意見を反映できるようにしている。	管理者は職員からの申し出で話を聞く時間をつくっており、職員は話しやすいと感じている。マニュアルの手順、調理の仕方、早出の負担軽減のための業務の流れ、危険箇所等、職員から改善点の提案を取り上げ運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	採用後、初任者研修、介護福祉士実務者研修を受ける人に奨学金制度の優遇を図っている。産休、育休もとりやすい環境にあり職場復帰につなげている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたっては性別や年齢を理由に排除していない。職員は得意分野を活かして勤務している。又、社会参加や休みが必要な時は勤務の調整を行っている。	法人の方で採用を決定している。現在、性別に関係なく30歳から70歳の方が勤務している。参加したい研修があれば希望を申し出ることができたり、野菜作りや得意分野で職員はいきいきと働いている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人内外の研修に参加し、ミーティングで勉強会を行い人権を尊重するために大事なことを話し合っている。また、職員同士で注意しあうこともある。	人権教育の一環として虐待のチェックリストを活用している。特に言葉の使い方には留意している。利用者本人の意思を大切にしたり、強めの言葉使いや命令形の言葉にならないようお互いに注意しあったり、具体的に話したりして人権を損なうことのないように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加し、ミーティング時に報告するようにしている。新採用者には、定期的に自己評価をしてもらっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH部会や外部研修に参加し、勉強会などで、お互い情報交換を行いサービスの向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前より交流を行い、ゆっくり向き合いながら不安や訴えを受け止め信頼関係を作るよう努めている。入居前に職員全員で情報を共有し統一したケアができるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に、キーパーソンやご家族から不安や要望について、情報収集を行いニーズの把握に努めケアプランに反映できるように関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の現在の様子、思い等必要としている支援を提供している。必要に応じて本人に合ったサービスが提供できるように他機関とも連携を図るようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員は家事やレクリエーション等で日々の生活を共にし喜びや楽しみを一緒に共感できるようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会や電話でその都度、生活の様子を報告している。又、ご家族の協力を頂き外出されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の面会時には馴染の関係が続くように心地良く過ごして頂けるように支援している。入居者が希望する場所にドライブに行ったり買い物にも同行している。	馴染みの美容室、他県の友人との長時間電話、かつて趣味だった茶道の先生やお琴のお弟子さんたちとのつながりなど、大切に支援している。また、家族との外食やお盆の墓参りなど、理念にあるように家族の力を生かして関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーションにより入居者同士の交流が図れるようにしている。孤立した状況を作らないように職員が会話の援助を行ったり座る位置にも配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は面会に行き、ご本人・ご家族と情報交換を行っている。現状を把握し相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で一人ひとりの思いや希望を聞き、職員間でも情報を共有し意向の把握に努めている。困難な場合は本人の状態観察と家族の意見をカンファレンスで検討している。	職員は日々の関わりの中で傾聴を心がけており、入浴時など個別対応時にもゆっくりと思いや希望を聞き取っている。困難な場合は表情や言動から把握に努めている。また家族の訪問時に様子を伝え意見や情報をもらい、本人本位に職員間で検討し対応を行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族からお話を伺い、これまでの生活習慣に近い環境で安心して暮らして頂けるように努めている。居室には、これまで大切にしてきた家具や品物を持参していただいている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にかンファレンスを行い、モニタリングを行っている。毎日の経過記録により、入居者の状態把握に努めケアプランに活かしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を聞いて、職員で検討し状況に合った介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、状況変化のある時は随時見直しを行っている。	職員は利用者2名ずつを担当し、家族の訪問時には利用者の状況報告をしている。その際、家族の要望など情報収集を行って、職員全体で話し合い利用者の思いに沿った介護計画の作成を行っている。医師の意見も往診時に確認し計画に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、気づきや変化は申し送り時に報告し記録にて情報の共有を行いケアプランに活かしている。現状を把握する為にSOPにて記録を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望があれば医師・歯科医等の受診、往診を行える体制を取り組んでいる。お一人おひとりのその時の状況、ご家族の意向を聞き柔軟な対応ができるように取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に参加しており、地域の行事やボランティア活動(クリーンパートナー)などを行う中で、本人が力を発揮出来るように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医を入所時に聞いている。受診の時は職員も同行し、必要な方は訪問看護や歯科・心療内科医の往診も依頼している。	月2回連携医の往診が行われている。これまでのかかりつけ医や歯科・心療内科以外の他科受診は家族の協力を得ている。家族介助が困難な場合や急遽受診の場合は職員が連れていき、その受診結果を家族に報告している。今後、眼科の往診依頼も検討している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内で医療連携体制が整っており、日々の健康状態を報告し、急変時の対応が敏速に行くように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携を通して家族や病院関係者との連絡を随時行い、情報を共有している。入院による不安やダメージが最小限となる様に、定期的に家族、病院関係者と相談し安心して頂けるように支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りに関する説明を行い、同意書にてご本人・ご家族の意向を確認している。身体状況が低下した場合は、本人、家族、主治医と相談しながら出来る限り希望に沿い、安心して頂けるように最善を尽くしている。	契約時に管理者が本人、家族に看取りについて説明を行っている。状況変化の度に医師の説明を受け、方針の確認を行っている。希望があれば家族宿泊用の寝具の準備や食事は提供できる。医療連携体制を整えることで安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時の対応や事故発生時に備えての勉強会や訓練を行っている。日頃より職員同士で不安や疑問について話し合い実践力を見に付けている。AEDを設置をしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜を想定した避難訓練を行い、1回は消防署の立ち会いを依頼し指導してもらっている。日頃より避難経路、場所についても指導し周知している。又、自治会への協力もお願いしている。	年2回訓練を実施している。1回は消防署の協力を得て総合訓練を行い、職員も避難誘導経路を十分に把握することが出来ている。スプリンクラー設置や水、食糧などの備蓄をしている。消防署から避難誘導の確認方法、自動火災報知設備の設置を指導されている。	訓練の実施や地域への協力依頼ができてきているところなので、避難誘導が確実にできたことを誰もがわかる方法の検討と自動火災報知設備を早急に設置することが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの生活歴を把握し、自尊心に配慮した言葉かけを行い、特に入浴・排泄等では羞恥心に配慮した対応をしている。又、職員同士で気づきは注意し合っている。	排泄や個人的なことは他者に聞こえないよう耳元で声をかけたり、話している。家族の訪問時にはさりげなく対応をし、家族訪問の無い方の気持ちに配慮をしている。尊厳やプライバシーを損なう言動には管理者や他の職員が注意をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や想いを聞き、表出が難しい方は表情や態度から思いを見極め、自分で選択できるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の本人の身体的、精神的な状態把握に努め本人のペースに合った生活を送れるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が望む美容室等、希望がある時は家族や職員が付き添っている。着替えは出来るだけ本人に選んで頂いている。化粧品も希望により購入している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで作った野菜を収穫したり、下ごしらえを一緒にしている。テーブル拭き、トレー拭きなど出来る事を役割を持って頂いている。	利用者は豆の皮を剥いたり、テーブル拭き等できることを職員と一緒にやっている。オープンキッチンのため、調理をする様子や食事のにおいをリビングにいながら楽しむことができる。菜園で収穫した野菜が食卓にあがったり、おやつは利用者の好みを聞き、行事の時などに一緒に作っている。朝食の時間を遅くしてほしいとの希望にも個別に対応を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士の指導により、個人に合わせた食事提供を行っている。制限のある人には献立を変更している。毎日バイタルチェック表に食事量を記入し、水分量も個別に記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがい、義歯洗浄を行い口腔内の清潔保持に努めている。個人に合わせたスポンジやガーゼも使用している。又、歯科往診も行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から、個人の排泄パターンを把握し声かけ、誘導を行い失禁を減らせるように支援している。一人ひとりの自尊心に配慮しさりげなくトイレ誘導を行っている。	一人ひとりの排泄間隔を把握し、声掛けを行うとともに、ケアの中で利用者の様子から察知し自尊心に配慮しながらさりげなく誘導を行っている。現在テープ式紙おむつを使用している方はおらず、トイレでの排せつができるように支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、水分補給にも気がけて自然排便につながるよう支援している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜以外毎日入浴を行い、希望や健康状態を考慮し、週2～3回は入浴出来るように支援している。入浴できない場合は清拭、着替えを行い清潔保持に努めている。季節により、ゆず湯、ハーブ湯を楽しんでいる。	入浴は毎日2時～17時までに行っている。拒まれる場合は時間や曜日を変えるなど一人ひとりのタイミングに合わせたり、職員が変わったりしている。介助は同性が行うようにしている。シャンプーや石鹸も希望があれば本人の好みのものを使用している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活習慣や体調、ニーズに応じて休息して頂いている。夜間は安眠できるように寝具の調節や室温を考慮し支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、いつでも職員が確認できるようにしている。服薬時には本人に手渡し服用の確認を行っている。体調に変化があれば速やかに看護師、医師へ報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、畑仕事など一人ひとりに合った出来る事をして頂き楽しんで頂いている。散歩やドライブの機会を設け、気分転換等の支援をしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの花見やドライブに出かけたり、近所に散歩や買い物に出かけている。外出途中、軽食をする等個別に支援している。	天気の良い日は近くの公園まで散歩に行っている。事業所周辺には店舗も多く、希望がある時は一緒に買い物にも出かけている。地域の行事にも参加しており、地域の方が手を引くなど、協力を受けて地域に出かけていく支援をしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で、少額ではあるが自分でお金を管理されている方もいる。買い物ができるように出かける支援を行っている。自己管理が出来ない方はホームでお預かりしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自由に電話をしてもらっている。又、手紙や年賀状を出したりと支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花を生け、利用者と一緒に作成した作品や行事写真を飾っている。台所からは調理の音や匂いがあり、生活感を感じて頂いている。	広々としたリビング兼食堂には足踏みミシンや和ダンス、日本人形等が置かれ、畳スペースもある。窓からは大きな慈母観音像が見え、事業所内には利用者作品や観葉植物を置くなど利用者が居心地よく過ごせる工夫をしている。フロアにはオゾン発生器を設置し、感染症の予防にも配慮している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・畳敷きの場・食堂が一体化しており一人ひとり思い思いに過ごせる様に支援をしている。入居者同士で誘い合い、同じ場所でくつろぎ談笑されている事もある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談しながら居心地よく過ごせるよう、自宅に近い空間作りを支援している。使い慣れた家具や仏具を持参される方もいる。	クローゼットや引き出し付き木製ベッド、タンス、くつばこが準備され収納が多い。事業所で用意した木製机と椅子は読み書きや家族・友人と過ごすテーブルとして使用している。テレビや位牌など利用者が使い慣れた家具を持ち込むこともできる。壁にはピクチャーレールもあり、家族の写真や絵画など好みのものを掲示したり本人、家族の意向に沿った部屋作りができています。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の出来る事や、一人ひとりのADLの状態を把握し、環境整備を行い自立した生活が送れるように工夫している。		